自己評価票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	22
1．理念の共有	3
2．地域との支えあい	3
3．理念を実践するための制度の理解と活用	5
4．理念を実践するための体制	7
5．人材の育成と支援	4
Ⅱ．安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1．一人ひとりの把握	3
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1．その人らしい暮らしの支援	30
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ．サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	有限会社 敬徳
（ユニット名）	グループホーム かいもん
所在地（県・市町村名）	鹿児島県指宿市開聞十町1390-1
記入者名（管理者）	下園 裕久
記入日	平成21年 2月 1日

（調査様式4）

自己評価票

	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営 Ⅰ．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者本位に考えての理念を、職員全員で考えて、つくっている。	○	地域の中の、グループホームということをも考慮して検討していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの入り口やトイレの中などの職員の目のつく所に掲示している	○	出来る限り、理念の実践に向けて取り組んで生きたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用者の事を考慮しての理念である地域の中のホームという点では、理念が少し不足している	○	地域の中のホームであることを考慮して内容を検討し、理解に努めたい
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ホームは、地域の中にるため、職員・利用者はよく地域の人と挨拶を交わし、交流に努めている。	○	ホーム自体は、開放的にしてあるものの、なかなか気軽に立ち寄ってもらえてないのが現状である。
5	○地域との付き合い 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	交流は深めているものの、自治会・老人会には参加していないが行事等には、参加している。	○	職員自体、地元の人がいる為にホームとしては自治会には参加していない。今後は自治会・老人会に参加いきたい

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在のところ、取り組んでいない	○	近くに、役所・居宅介護支援事業所等がある為、取り組んでいく余地がないようであるが民生委員・病院関係とは連絡を取りあって生きたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を活かして取り組んでいる	○	ホーム内外の整備及び利用者にに対しての心構えが自然にできてきたようである
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所の職員や地域の長・民生委員の参加で、いろいろと協議されている。 それをもとに、サービス向上に努めている	○	地域の中のホームを目指して頑張りたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に、市町村担当者の所に出向き指示を仰いだりしてサービスの質の向上に取り組んでいる	○	今後も継続していきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	特に学習の機会をつくってはいない	○	ホーム自体としては、勉強の機会を設けていないが、管理者としては、その必要性を重視し、社会福祉士会などへの相談はしている
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法ついて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止法については、職員会議等で勉強会をし、全職員で常に心掛けている	○	開設以来、虐待はしないという方針の下、常に取り組んでいる

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、 利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、十分な説明を行い理解・納得を得ています	○	利用者は認知症のため、身元引受人に、説明し理解を得ている
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に、苦情相談窓口を設置している。また、いつでも管理者・職員に口頭にて表現できる体制にある	○	常に、利用者には相談窓口を利用して相談苦情を声掛けをしています
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の状況については、電話連絡をしたり、月1回の利用料の支払いの時などに報告し説明しています	○	疾病・怪我等の場合は、その都度連絡している
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内の苦情相談窓口や市町村の苦情相談窓口を説明している	○	普段から家族からの声を聴く様にしている
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、 反映させている	月1回の職員会議にて、職員の声を聴く機会を設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応が出来るよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の調整については、職員の幅を柔軟に対応している		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、 異動や離職を最小限に抑えることを努力し、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は最小限に抑えており、利用者の精神的な不安を少なくしている	○	馴染みの職員の体制維持に努めるようにしている
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特に研修計画は立てていないが、職員会議等で研修課題を設けて実施している。また、現場での実践をも重要視して行っている	○	年間の研修計画を立てて、職員研修に充てたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、 ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在のところ、交流の機会はない	○	地域支援ネットワークをつくり交流することで質の向上を図りたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者主導でなく、職員主導のホームであり、スムーズに行っている。また職員会議後はお茶会などを行って交流に取り組んでいる	○	職員との交流を図り、ストレスの軽減に努めたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実積、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	常時職員の状況を把握しており、声掛けなどをし安心して働けるように努めている		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	相談や入居申し込みに来られた段階での本人とのやり取りはあまりできないので入居後、特に不安のないように努めている	○	相談から利用に至るまでの間に本人とよく面談をしていきたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	入居申し込みに来られた段階で、家族とのやり取りを行い、入居後に不安のないように努めている。特に入居後は家族との連携を密にしている	○	もっと連絡を密にしていきたい
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時には、もうすでに入居の申し込みの段階である為、今のところその段階まで進んでいない	○	今後、もっと密に連絡を取り必要としているものは何かを把握していきたい
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人が納得した上での、入居でなければ支援する職員も大変であるため、基本的には本人が納得して、それで、馴染みの物を家庭よりホームに持ち込む体制にしている	○	馴染みの物を持ち込んでも、環境が変わる為、ホームの生活に慣れるのに時間がかかるようである
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人と介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活する場所ということをモットーに、共同生活という意識を持って、支え合う関係を築いている	○	職員主導の支援であってはならないことを認識している

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族や利用者の思いを共有し、本人の為に皆で支えあっている	○	家族・利用者の為に思いを一つにして今後も支援していきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族や利用者の思いを共有し、本人の為に皆で支えあっている	○	今後も継続して支援にあたりたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の意思を尊重しながら、馴染みの関係や場所等を途切れないように配慮している	○	自宅への一時帰宅や墓参りなど今後も継続して支援していきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が係わり合い、支え合えるように努めている	利用者個々の性格を把握しながら日々の支援にあたっている	○	一人にさせない工夫をしている共同生活を基本としていることなどを話して理解を得ている
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後も、なるべく関係を維持している	○	電話などでの情報交換を今後も継続していきたい

	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続ける為のケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや希望が我儘にならないように気配りしながら、意向の把握に努めている	○	本人の意思の尊重を重要視している
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活暦を、家族より情報収集し、サービスの提供に活かしている	○	今後も家族と連携を密にし利用者の為に何ができるかを追求していきたい
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常に利用者個々の心身の状態は把握しており、日々の生活に活かしている	○	一日の生活の中で、その人の力を発揮する場面を見つけ、工夫している
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	毎週曜日を決めて、カンファレンスを行い本人の状況について話し合いを持って介護計画を立てている 家族も月1回は面会に来ている	○	本人や家族の意見を取り入れた介護計画になるように努めている
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人に状況の変化があったときには介護計画の見直しを、関係者を含めた形で行っている		

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果・気付きや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況は個人記録に残し、スタッフ全員で共有している。それを基に介護計画の見直しに活かしている	○	常に記録の重要性を重んじて記録に起こしている
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力医療との連携で24時間体制にあり家族も本人も安心して生活している。また通院等においても家族の負担がないようホームのほうでなるべく行っている	○	ホームで出来る範囲内のことは、ホームで柔軟に対応していきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協議				
40	○地域資源との協議 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	推進会議の委員の中に、地区公民館長や民生委員がおりまた、駐在所・消防署等も近くにあり、柔軟に対応できている	○	今後も、協力・支援を求めていきたいと思います
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近くの足湯を利用したり、地域のボランティアの方が来られて楽しいひと時を過ごしています	○	
42	○地域包括支援センターとの協議 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協議している	いろんな観点から、随時行政との連携を密にとっている (成年後見人・生活保護等について)	○	今後も連携を密にしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を入居後も継続している。また家族の都合で通院等の関係もあり、困難な場合などは協議し、協力医療機関に変更している	○	今までのかかりつけ医を基本としている
44	○認知症の専門医等の受信支援 専門医等認知症の詳しい医師と関係を築きながら、 職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症のサポート医が同市内におり、管理者等は、意思との連絡体制は整っている	○	もっと関係を、密にしていきたい
45	○看護職との協議 利用者を良く知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師のアドバイスのもとに支援しまた、定期的に往診等もあり、安心して支援できている	○	今後も、十分に医療連携をとりながら支援していきたい
46	○早期退院に向けた医療機関との協議 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、 また、 できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。 あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合には、看護師だけでなく介護職員も病院に顔を出し元気づけている。常時、関係医療機関とは連携は取れている		
47	○重度化や週末期に向けた方針の共有 重度化した場合や週末期のあり方について、出きるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に関しては特にないものの、現在、まだ、終末期については、実施していない。	○	今後、家族やかかりつけ医との協議が必要であり、検討していきたい。
48	○重度化や週末期に向けたチームでの支援 重度や週末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・出来ないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	できるだけ長い期間、ホームでの生活を、職員・家族とも望んでいるので重度化しても特に、心配はしていない。	○	職員全体で、重度化については、今後、勉強会を実施していかなければと思います。

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、 住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前に、家族の方から十分に入居者に説明をしてから、入居の運びとなるように心掛けている	○	本人の了解を最優先としていきたい
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **(1)一人ひとりの尊重**				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々の人権を尊重し、また、プライバシーを損ねないように配慮し、記録等にも気をつけている	○	職員には採用時に個人情報のことについては説明している
51	○利用者の希望表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる方に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の思い・希望がわがままにならないように配慮し、本人の意思を尊重し、楽しく暮らせるように支援している		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合をを優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、 希望に沿って支援している	一人ひとりのペースを大切にしてリズムを崩さないように配慮して支援している		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店にいけるように努めている	その日の服装については、本人の意思を尊重し、また理容についても、個人の意思を尊重している	○	理容・美容については、行きつけの理容室を利用している

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しくことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事面全体的に、全利用者が関わって協力しながら行っている。 調理・配膳・下膳・食器洗い等その日の当番を決めて行っている	○	今後も、利用者とともに生活していきたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が好むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居前に、嗜好調査を行い、入居後もその生活を延長できるように支援している。また喫煙所もベランダに設置している。	○	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やオムツの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	入居前に家族・本人に確認するとともに入居後、排泄チェック表を作成し、排泄のパターンを把握し支援している		
57	○入浴をたのしむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を楽しめるよう努めているが、入浴の時間帯についてはホームの一日の流れで決めている	○	本人の意思を尊重しながら、今後検討していこうと思います
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	睡眠・休息についてはその人の、パターンにそって支援している		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	共同生活での、その人その人の役割をきちんと把握し、楽しい生活ができるように支援している	○	

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者全員というのではないのでは、ないのですが希望のある人は、本人の意思に沿うよう心掛けている。また、月1回の財布の確認をしている	○	金銭的な問題でもあるので、家族と十分協議しながら実施しています
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くに、ストアーや神社などがあり、天気のいい日などは、戸外にでかけられるように支援している	○	今後も継続して支援していきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、 支援している	墓参りや自宅などへは外出については、なるべく本人の希望に沿うよう支援支援をしている	○	今後も継続して支援していきたい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、 手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状・暑中見舞いなど定期的に、入居者個人から出せるようにしている。 電話などは本人からの要望があればいつでもできる状態にある	○	今後も継続して支援していきたい
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の設定はなく自由に面会出来るようにしている。面会者に対しては自由に過ごせる空間を作ってある		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームは、開設以来、身体拘束「ゼロを基本にしている為、全職員常に心掛けている	○	今後も、拘束「ゼロ」も目標に取り組んでいきたい

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠イコール身体拘束というイメージがあるため、夜間以外は常時施錠しないケアに、開設以来取り組んでいる	○	現在の状況を、今後も継続して実施していきたい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の所在については30分～1時間の間隔で確認し、記録に残している	○	記録に頼らず、きちんと所在を確認するように努めたい
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知症のホームであるため、トイレ・洗面所等には、危険になるようなものは置かないよう取り決めにしている	○	危険になるようなものは、所定の場所に置くようにしている
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故のための、勉強会をカンファレンス・職員会議で行っている	○	職員一人ひとりの自覚を持って今後も支援にあたりたい
70	○急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的ではないものの、スタッフ全員応急手当や初期対応ができるようにしている		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が非難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人々や近くのストアーなどには日頃より、協力を得られる体制にはある	○	今後も地域との連携を密にしていきたい

	項　　目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時の契約時に、家族に十分に説明し了解を得ている。	○	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックを基本にし、食事量や体調を確認することを忘れない様にしている	○	異常があった場合には、すぐに看護師に連絡の取れる体制にある
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員、服薬のついては十分に理解するように努めている。また、薬の変更や臨時薬についても随時、把握に努めている	○	服薬の説明書には、必ず目を通すようにしている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事療法と水分には注意を払っている また、献立は、バランスを考慮して作成している 排泄チエック表の活用		
76	○口腔内の清潔維持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔衛生を行い職員でチェックしている。また義歯の人に対しては、定期的に消毒をも実施している	○	口腔衛生には、十分に気をつけている
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量やバランスまた水分は、常に考慮しており、その時その時の利用者の状態は把握出来ている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防については、日頃より職員自体、常に気を配り消毒面などにも心掛けている	○	玄関に、消毒液を設置している今後も、消毒液を置いていきたい
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新新で安全な食材の使用と管理に努めている	台所用品については、曜日を決めて消毒している。また、食料品については近くのスーパーにて購入している	○	衛生面については、特に注意をはらっている
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1)居心地の良い環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム周辺には、特に玄関前などは、花を植えて、明るい雰囲気作りに努めている。また周辺には、野菜等も作っている	○	明るい雰囲気つくりに努めている
81	○居心地の良い共有空間づくり 共用の空間(玄関 、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は 、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の共有空間においては、自然な形での作りにして、今のところ利用者や家族からの苦情等はない		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には、和室、ソファー、ウッドデッキ等があり、各自それぞれ自由に過ごされている	○	明るい雰囲気つくりに努めている

項　　目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人の家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、入居者個人の部屋である為本人の自由に、使えるようにしている		
84	○喚起・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、 利用者の状況にような居場所の工夫をしている	トイレや居室は常に喚起を十分にしてある。また、ホーム内は、温度・湿度計を置いて、職員はそれをもとに温度調節を行っている	○	室内の換気及び温度・湿度については今後も、十分注意していきたい
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が遅れるように工夫している	ホーム内外は、バリヤフリーに造っている為、下肢の不自由な人や車椅子の人でも自由に行動できるつくりになっている		
86	○わかる力を活かした環境つくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	認知症のホームであることを理解しており、混乱のないように未然に防いで安心して暮らせるよう支援している		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダは全面、芝生を張ってあり自由に散歩・ボール遊び等ができる また、座っての会話等も可能である	○	自由にベランダへの移動が可能になっている

(　　)部分は外部評価との共通評価項目です)

V．サービスの成果に関する項目

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ○ ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者の ○ ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係が出来ている	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいと ③利用者の1/3くらいと ④ほとんどいない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきてくれる	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ○ ③たまに ④ほとんどない

項　　目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②すこしずず増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働きかけている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②利用者の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしい点を記入してください。)